第２回　蕨市塚越ビジョン策定市民懇談会　議事概要

■日　時　令和８年８月19日（水）　午後７時00分～午後８時30分

■場　所　東公民館３階　集会室

■出席者（敬称略）

委　員：上野 梢、野澤 俊夫、宮嵜 直子、村田 郷子、鈴木 眞知子、野本 信幸、
町田 純、青木 祥夫、座光寺 剛、福田 力、小松 彩華、貫井 賢治、
河村 浩康、山田 麗子、高橋 義貴

事務局：小柴 正樹(総務部長)、島田 雅也(政策課長)、
菊地 雅治(政策課長補佐)、平野 大地(政策課主事)、
岡本 啓太郎(東公民館長)、助石 菜穂子(東公民館事業係長)

傍　聴：２名

■次　第

１．開会
２．議題
（１）意見交換
（２）その他
３．閉会

■内　容

【開会】

【議題】

※議事については、岡本東公民館長がファシリテーターとして進行

（１）意見交換

事務局から、第１回の議事録の確定と資料の説明をした。

ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：事務局の資料で示された取り組むべき６つの柱と取組内容について意見を伺いたい。

委　　員：コミュニティの醸成というのが、重要なキーワードだと思う。コミュニティは、簡単にできそうで難しい問題で、塚越のコミュニティが今どのくらい醸成しているだろうかと考えた時に、一時期の塚越の盛り上がりとは違うなと感じている。前回から、市民公園について、いろいろ意見が出ているが、それもコミュニティがないと、公園の維持や、グループを作ったり、何かしたりということもできないと思うので、コミュニティとは何かという話し合いをしていきたい。

委　　員：前回、既存のコミュニティの維持が、なかなか難しくなってきたという話と、学園都市の話をさせてもらったが、先程の委員もおっしゃったように、コミュニティとはどういうものなのかなど、皆さんの共通のイメージを、持った方が良いのではないかと考える。町会という非常に基本的なコミュニティでも、維持することが難しくなっているので、どうしていけば良いコミュニティができて、良い塚越になっていくのか、というところを将来のビジョンとして、しっかり持っておきたいと思っている。また、今回配られた資料で、都市計画マスタープランというものがあることを初めて知り、今調べてみたら、地区ごとに方針のようなものがあって、塚越は「心豊かに暮らせるまち」というフレーズが使われている。これは他にはなく、何をイメージしてこの言葉が使われたのか気になった。さらに「織りなす」という単語、これはたぶん織物（双子織）の発祥だというところを織り込んで使っているのかと感心した。

委　　員：「安心安全なまち」は、全ての柱にかかると思う。資料の中で、「東公民館の機能強化・利便性向上」にだけは入っていないが、「安全安心なまち」は、東公民館が拠点になってくるのではないかと感じている。先日の大雨で、千葉県が大変な状況になったように、やはり今、日本のどこに行っても災害の心配はあるし、以前、蕨でも集中豪雨が起きた時に、市民公園の周りや蕨駅の陸橋のところも結構水が出て、車が通れなくなったということもあった。そのため、地域コミュニティがしっかりできて、この公民館が拠点になって、本当に安全安心に、「心豊かに暮らせるまち」になれば良いと思う。

委　　員：「教育・子育て」について、基本的には資料のとおりの内容だと思うが、今、共働きで働いている母親がとても多いので、働く親たちにも寄り添えるような内容のことが織り込まれると良い。「安全で安心して暮らせるまち」というには、やはり、「子育て」は欠かせないと思う。

委　　員：これから塚越をより明るい、発展した地域にしていくためには、やはり若い人が、住みたいとか、住み続けたいと思う魅力のあるまちにしていかなくてはならないと思う。また、コミュニティについては、昔は「向こう三軒両隣」という言葉があって、隣同士仲が良いと、「さっきうちの方に変な人が来て、お宅の方へ行ったようだけど大丈夫？」というようなやり取りができて、こういったこともコミュニティにつながっていくと思う。

委　　員：蕨や塚越だけでなく、市街地のことを考えた時に、非常に大きな問題が２つあると思っている。１つ目は、駅前の商店街。昔からの商店街というものが全国的にほとんど疲弊していて、シャッターが閉まっている。市街地を形成する中で、「人が住んでいる」ということも大事だが、やはり昔からの商店街というのは、まちにとって欠かせないということで、これは非常に問題だと考える。２つ目は、市街地の中で、空き家が増えていること。これは防災・防犯といったことから考えても大きな問題だと感じた。今すぐ市でどうこうできるような、簡単な話ではないが、今感じていることという点で言及したい。

委　　員:事務局が挙げた６つの柱については、こうした要素は必要だろうと感じた。「コミュニティ・にぎわい」、それから「市民公園」でいろいろ取組をしようというようなこと、交通の充実など、もろもろ大事だと思う。それをよくまとめてくれたと思ったが、足りないのは、エネルギー源のようなものではないか。例えば、佐野市では、クリケットというイギリス発祥のスポーツの国際試合ができる競技場を日本で最初に作っていった。それこそ何年も相当な年数をかけて作りあげていったのだと思うが、そういった、息の長い事業、本気になってできるようなものを探さないと、形骸化した「良い話」までで止まってしまう。この塚越の何かというのは、もう少し深く掘り下げて、「こういうことをすれば他のところにはない特長のあることができるのではないか」というものを探して、皆さんで考えるのが良いと思う。

委　　員：来週、避難所運営協議会があって、学校が避難所ということでお世話になるが、私たちが子どもの頃と比べると、町会と学校とのつながりというのが、希薄になってきていると感じている。また、外国籍の子どもたちが多いので、そういったことについても関心がある。

委　　員：コミュニティ・にぎわいが重要だと思う。「人とのつながり」、「人」が一番大切だと感じていて、PTA離れとかコミュニティ離れが進み、生涯学習フェスティバルなども参加者が少なくなっているというところがあるので、まずはいろいろな立場の方が参加するこの懇談会のメンバーで力を合わせて、いろいろな人を巻き込めるような、いいコミュニティが作れたらと思う。

委　　員：私は、あえて重要ではないと思っている柱について言及したい。交通アクセスに関しては、もちろん柱としては大事だが、ビジョンで話すような内容ではないと考えている。例えば道路の老朽化については、現時点でも市の担当課が対応しているし、交通アクセスの維持・向上に関しても、これまでぷらっとわらびを時計回り・反時計回り両方走らせるような案なども実現していないということは、費用対効果が薄いと目されたからだと思うので、インフラとかに関わってくるところは、ここでは触れなくて良いと思っている。せっかくの議論する場なので、もっと差別化を図るための取組を考えられたら良いと思う。塚越地区は一番遠くても駅から1.2㎞くらいなので、それも考慮すると、力を入れる必要はないと思っている。

委　　員：６つの柱、全て大事だと思ったが、結局は「コミュニティ・にぎわい」に行き着くと思う。外から人を呼びこむにしても、にぎわいは必要だし、コミュニティがあってこそのにぎわいだと思う。コミュニティが作れていれば、防犯や安全にもつながってくると思うので、人と人とのつながりであるコミュニティを大切にしたい。また、それぞれのコミュニティの中では盛り上がっている部分もあると思うので、コミュニティ同士の関わりも必要ではないか。

委　　員：商店街を歩いてみると、個人経営の商店がもう激減している。かつては、そこに生まれ育ち、その土地で商売して、地域に育てられたということで、様々なコミュニティ、地域活動に協力していこうという意識を持っていた方が多かったが、今は都内のデベロッパーとかが入ってきて、地域の方向性とそぐわない単身者向けのマンションになってしまうことが多い。多種多様な業種があって、連続性があって、そこに行くとワクワクする、楽しい、人との交流もある、そういった、横の広がりと奥行きがあるような商店街が形成されれば一番良い。それを目標に様々なイベントをやっているが、それが継続的ににぎわいにつながっているとは限らない。持続可能なにぎわい作りって何だろうか、ということをいつも考えているが、答えは出ない。

委　　員：コミュニティ・にぎわいについて、世代の取りこぼしがないことを期待したい。具体的には、若者や外国人、現役世代、単身者も同じように公平に含めてほしいという思いがある。また、他のにぎわう場所と同じことをやっていてもいずれ廃れてしまうと思うので、塚越ならではの個性とか宝物みたいなものを見つけ出していかないと、長い目で見て難しいのではないかと思う。

委　　員：「東公民館の機能強化・利便性向上」について、ソフト面のすぐにできそうなところから、まずマイナンバー関係のこととか手続関係とかを始めて、せっかくこうやって集まって話し合ったことが、すぐに目に見えて実現するという実感があったら良いと思う。

委　　員：私も、他の委員と同様に、「コミュニティ・にぎわい」が一番重要だと思っていて、では具体的にはどうしたら良いだろうか、というのを少し悩んでいたが、やはり、市民公園を活用するというのが一番良いのかなと思っている。あれだけの大きな敷地なので、例えば４年に１回でも大きな祭りをするのはどうだろうか。毎年はちょっと厳しいのかなと思うので、４年に１回でも、各町会が集まって、意見を述べながら、お祭りをしながら、町会同士のコミュニティとか、交流を深められたら良いと思った。

ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：６つの柱について、各委員にそれぞれ思いが強い柱を中心にご意見を伺ったが、一巡したものの、言い足りないこと、別のテーマで話したいことがある方がいれば、発言をお願いしたい。

委　　員：先ほど別の委員から考える必要がないのではとの意見もあった「交通アクセス」の部分で、以前から思っていたのは、川口市のように地下を通るスロープを作って行き来しやすくするということはできないだろうかということ。すぐに水であふれてしまうという指摘もあるかもしれないが、すごくお金がかかるということが、できない要素の１つであるとしたら、それこそ塚越が全体として声を上げれば、もしかしたら実現するかもしれない。

委　　員：第１回の会議の中でも、塚越には文化的な施設がないとか、線路を越えて行かないと生活が成り立たないという意見もあったので、塚越にいても、公的なサービスが受けられるとか、塚越だけでも文化的な生活が送れるとか、そういうことも考えていかないといけないと思う。長期的なビジョンになるかもしれないが、塚越にも大きな行政機能を持つ施設が一つ欲しいと思う。そういう点は、塚越ビジョンの中には、しっかりと入れてもらいたい。

委　　員：塚越の中心をつくるという作業が必要ではないかと思う。市民公園、東公民館、商店街などがその中心になり得るものと思うが、そうした施設が連動して、用事がなくても行きたくなるようなエリアづくり。そこにいけば無料Ｗｉ－Ｆｉがあったり、交流スペースがあったり、開放的な空間、何かあってもそこに行くと楽しく過ごせる空間。そういうものがあると良いと思う。

ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：その他意見のある方はいらっしゃらないようなので、６つの柱についての意見交換は終了とし、次に資料14ページにある、塚越ビジョンの目標・コンセプトを皆さんと一緒に考えていきたい。目標・コンセプト、言い換えれば、キャッチフレーズのようなものを考えていきたいが、いきなりフレーズ全体を考えるのは難しいので、キーワードを考えたい。塚越ビジョン全体の目指すところをどのように表現していきたいか、ということについて発言をお願いしたい。

※以下に、各委員から出された取り入れたいキーワードやイメージ等を列挙

○コミュニティ	○にぎわい（活）	○市民公園
○緑豊かな	○コンパクト	○住みやすい
○人と人とがつながる	○豊かな文化	○人が集まる
○ダイバーシティ	○多様性	○塚越リンク・ベース・ネクスト
○ワクワク	○グローバル	○底力がある

ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：様々なキーワードも出たので、これらを踏まえて次回の会議において話し合いを進めていきたいと思う。

（２）その他

事務局より、次回の予定などについて説明した。

【閉会】

以上